

北海道南西沖地震災害

～20周年追悼式～



今年、七月十二日で奥尻島の歴史に大きな影を落とした北海道南西沖地震の大災害から二十年の節目の年を迎えました。

町では、青苗中学校体育館で追悼式を開催し、遺族や関係者を含め約五百名の方が参列し、犠牲となられた方達へ、それぞれの思いを捧げました。また、式辞で新村町長が述べた言葉を次のとおりご紹介します。

式辞

深い悲しみの日から二十年の月日が流れ、ここにご遺族の皆様並びに多くのご来賓のご臨席を賜り、北海道南西沖地震災害奥尻島二十年追悼式を執り行うにあたり、犠牲となられた御霊に対し謹んで哀悼の誠を捧げます。

思えば、二十年前のこの日、奥尻島民にとって生涯忘れることのできない日となりました。

平和で美しい島奥尻に、短い夏が訪れようとしていた七月十二日、浜辺に穏やかな潮騒が響き、沖にはイカ釣りの船の灯りがまたたいており、その静かな初夏の夜のとばりを切り裂くように突然大地が鳴動し、マグニチュード7・8という、未だ経験したことのない大

きな地震と津波、そして、火災により、奥尻島は一夜にして百九十八名の尊い命が奪われ、家を失い、肉親の姿を探し求める人々の悲しみの地と化しました。

私たちは限らない恵みを与えてくれる大地や海が、同時に計り知れない恐ろしい力を秘めていることを改めて思い知らされました。



参列者による献花

幸せな暮らしを一瞬にして奪い去る地震・津波災害。その辛く厳しい現実をしっかりと受け止め、再びこのような悲しみに暮れることのないよう、最善を尽くさなければならぬと痛感し



町内全ての小学生87名による追悼歌

ております。この二十年間、私たちが歩みを進めることができたのは、国や北海道をはじめ、救援や捜索活動にご尽力いただいた、自衛隊、海上保安庁、北海道警察、消防、日本赤十字社など、多くの関係機関の皆様、心温まる善意や励ましをいただきました全国のたくさんの方々、ボランティアの方々のおかげであり、改めて心より深く感謝を申し上げます。

防災・減災の取り組みは、今の社会共通の課題となっております。私たちは、あの震災から得た貴重な体験と教訓を、あの日の尊い命の犠牲を無にしないためにも、そして皆様への感謝の気持ちとともに後世に伝え、沿岸部に住む多くの方々の津波防災に対する意識の高揚に繋がる活動をして参ります。これからも、ふるさと「おくしり」を愛する島民全てが、ともに協力し合い、新たな奥尻島を築くために一丸となり、未来を拓き、さらに輝かしい町とするために、力強く歩んでいくこと



を犠牲となられた方々へ、これまで励ましていただいた皆様へお誓いし、式辞といたします。



追悼式辞を述べる新村町長



悲しみを乗り越え、ご遺族を代表し弔辞を読む 松田由紀子さん



追悼の辞を述べられた高橋はるみ知事